

日点委通信

No.40

2024年11月1日発行

点字考案200年を、日本における点字文化の活性化の年に！

日本点字委員会 会長 渡辺 昭一

まもなく、2025年がやってくる。2025年は、ルイ・ブライユ (Louis Braille) が、6点点字を考案した1825年から200年の節目の年にあたる。日点委は、点字の普及と現代社会に即した実用性の拡大を目指して、2021年に、関係団体と協力して「点字考案200年記念事業推進委員会」を立ち上げた。

これまで、「韓国点字法制定の経過と課題」、「アメリカの最新点字出版事情」、「日本における中途失明者、児童・生徒に対する点字指導の在り方」等をテーマに、講演会・シンポジウムを開催。一方、2023年11月～12月にアメリカ・フロリダで開催された“Getting In Touch With Literacy”へ3名を派遣し、その報告会を、本年7月20日に行った。

今後も、記念出版等の事業が計画されており、2025年大阪・関西万博においては、おそらく万博史上初めて、点字普及を目的としたイベントも予定されている。これらの諸事業をきっかけに、新たな点字文化の活性化に繋がることを強く期待するものである。

他方、日本視覚障害者団体連合が、令和6年度の内閣府への陳情項目として、〈視覚障害者に対する情報保障として、点字を恒久かつ全面的に保障するため、「日本点字普及法」(仮称)を制定すること。〉を掲げた。国に対して、点字を全面的に保障することを求めるのは、1909(明治42)年に、杉亨二、山岡熊治、森恒太郎(森盲天外)、桑田鶴吉、高岡清次せいじによって、「点字公認に関する請願書」が提出されて以来である。この請願書は、最終的に、同年12月の閣議決定において、以下のようなきわめて不当な理由で却下されたのである。

「点字は盲教育の為に設けられたる特別の符号すに過ぎずして、一般に慣用する国語に非ず。…此の如きは、現今文運の状態てらに照し、不必要の事と思考す」。(文運とは、文化・文明が発展しようとする気運のこと)

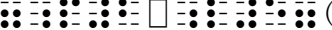
115年ぶりとなる国への要望の行方を注視するとともに、点字の普及等に向けて、一層注力することを決意するものである。

「表記法」の一部修正 — 「点字試験問題等で、行間が狭い場合に、指示符類で囲んだ箇所、次の行の①④の点を用いたアンダーラインを加える書き方」の削除

司法試験等で使用されていた、標記の書き方ですが、他のわかりやすい書き方の登場等により、現在は使用されなくなりました。そこで、今回削除することになり、『日本点字表記法 2018年版』のうち2箇所を修正しましたのでお知らせいたします。

修正後は次のようになります。

1. 4章2節2. の【注意】

【注意】 検索を容易にするため、試験問題や学習参考書などでは、目立ってしかも安定した形の第3指示符から使用することが多い。さらに、問題文中の指定箇所のページや行を、 (p2 □l5) のように設問中表示することも行われている。

2. 5章5節3の3. (3)

(3) アンダーライン・傍線・傍点など

墨字原文には、下線・傍線、下点・傍点、角カッコなどを付したり、ゴシック体などを用いて、その部分を強調している場合が多い。点字では、字の大きさや字体を変えることはできないので、点訳の目的と必要に応じて、これらの強調表現を省略したり、カギ類や指示符類を用いて表したりするなどの配慮が必要である。

なお、試験問題などで、強調ではなく、指示を表すためにこれらの表現がなされている場合には、第3指示符を用いる。指示の場合には、強調とは異なって、省略することはできない。

点字考案200年記念事業行われる

「日点委通信」No. 39の報告以降、下記の行事が行われた。

(1) 「第3回点字考案200年記念事業記念講演会inサイトワールド2023」が、2023年11月3日（金・祝）、すみだ産業会館、及びYouTubeライブ配信により行われた。

テーマ：「日本における児童・生徒、中途失明者に対する点字指導のあり方」

第1部 アメリカで開催の“Getting In Touch With Literacy”の事前発表会

第2部 「日本における中途失明者、児童・生徒に対する点字指導のあり方を考える」

「日本の点字」49号には、第2部において発表された下記お二人の講演を掲載予定。

牟田口辰己氏（「点字学習指導の手引」編集委員会主査）

渡邊寛子氏（福島県立視覚支援学校教諭）

(2) 7月20日（土）、2024年点字考案200年記念事業「近未来の点字の役割を展望するつどい」が開催された。

第1部として、アメリカで開催された“Getting In Touch With Literacy”に参加された方々からの報告と質疑を通して、点字や触知能力が果たす近未来の展望について考え、第2部として、最新の点字ディスプレイの実機を体験した。

2024年度日本点字委員会総会及び研究協議会報告

2024年6月8日（土）9：30～16：30、日本ライトハウス情報文化センター及びオンラインにより行った。出席者は、委員21名、事務局員4名、会友6名、オブザーバー等15名、計46名。

日本点字委員会第60回総会

委員23名中出席21名、委任状提出1名で、総会は成立する旨確認された。

(1) 2023年度事業並びに決算報告が承認された。

〔事業報告要旨〕①2023年度日本点字委員会研究協議会並びに第59回総会を開催した。

②『試験問題の点字表記』改訂版編集委員会を、年度内に3回開催した。③「日本の点字」第48号及び「日点委通信」No. 39を編集・発行した。④書籍等の頒布を行った。⑤点字考案200年記念事業に取り組んだ。⑥各種事務処理並びに諸連絡、事務局会の開催、ホームページに寄せられた各種問い合わせに対する対応等を行った。

(2) 点字試験問題等で、行間が狭い場合に、指示符類で囲んだ箇所に、次の行に①④の点を用いたアンダーラインを加える書き方の削除について（「表記法」の修正）が承認された。

(3) 2024年度事業計画案及び予算案が承認された。

〔事業計画要旨〕①6月8日（土）に2024年度研究協議会並びに第60回総会を、日本ライトハウス情報文化センターとオンラインの併用形式で開催する。②『試験問題の点字表記』改訂版編集委員会を開催し、編集作業を進める。③「日本の点字」第49号及び「日点委通信」No. 40を編集・発行する。④『日本点字表記法 2018年版』をはじめとする書籍頒布を継続する。⑤2025年の点字考案200年に向けて、関係団体と協力し有益な事業を企画・実施する。あわせて、日盲委と協力しつつ200年事業に向けた海外の情報収集に努める。⑥諸外国における点字に関する新たな試みについて、こまめに情報収集を行い、必要な対応を検討する。⑦事務局会を毎月開催する。必要に応じて正副会長会議をオンラインで開催する。⑧引き続き、日本点字委員会が、過去に発行した点字表記法のデータ化を進める。⑨その他、当委員会の目的達成のために必要な事業を行う。

2024年度日本点字委員会研究協議会

研究協議（1）

1. 『試験問題の点字表記』改訂版において新たに付け加える事項及び第2版からの主な変更点について（『試験問題の点字表記』改訂版編集委員会）

I 『試験問題の点字表記』改訂版 目次修正案（渡辺昭一委員）

[要旨]・第1部 第2章 第3節～第8節までのタイトルを変更。

- ・第2部 第1章 第3節 「試験問題の指示文等で変更が必要な用例」を新設。
- ・第2部 第4章 「図・表を含む問題の処理と注意事項」を一つの章として独立させた。
- ・第3部 第1章 「「表記法」方式と「点訳要領」方式で異なる点字表記の例」として、両方の用例を紹介。

II 各教科の手順と注意事項

- 1 国語科問題作成の手順と注意事項（坂井仁美委員）
- 2 社会科、地理歴史・公民科問題作成の手順と注意事項（大藪眞知子委員）
- 3 数学科問題作成の手順と注意事項（長岡英司委員）
- 4 情報科問題作成の手順と注意事項（長岡英司委員）
- 5 外国語科（英語）問題作成の手順と注意事項（福井哲也委員）

III 試験問題の書き方の形式に関する現状と用例（渡辺昭一委員）

研究協議（2）

2. 「全国盲学校校歌と点字 ― そのルーツを求めて ―」（金子昭委員）

[要旨] 全国の盲学校校歌の歌詞の中に、点字を「六つ星」と呼んでいるものがかなりある。そのルーツになるものは「あふげや あふげ」（「官報」に掲載）ではないかと推定される。

3. 「Armitage著 “The Education and Employment of the Blind”（『盲人の教育と職業』について）（金子昭委員）

[要旨] 小西信八は、東京教育博物館の手島精一から、イギリス製の点字盤と上掲書を借り受けた。同書は、ブライユ点字が視覚障害者文字として有用なことを説いており、小西がブライユ点字を導入することを促した。

4. 「日本語文章中の数式の表記に関する一考察」（福井哲也委員）

[要旨] 《注意》数式中の条件などを示すカッコには言葉を囲むカッコを用い、数式中の日本語として扱う。（『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』より）。

「日本語文章中の数式の表記」という観点で、上記《注意》の規定が浮き彫りにした疑問点を再検討する。

日本点字委員会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-14-102 桜雲会内

電話 080(3216)8600 振替口座 00100-1-42820

Eメール nitteni2021@gmail.com

ホームページ <http://www.braille.jp/>